佳作

人と人とのつながり

東京都　品川区立八潮学園六年　石井　沙希

私はこの夏、岩手県宮古市を訪れた。単なる夏休みの旅行ではない。私が住む品川区の「つなこし」という事務局が企画した「三陸・宮古ツアー」だ。「つなこし」とは「つながるみやことしながわ」という言葉から取られた名前だ。品川区と宮古市は災害相互援助協定を結んでおり、東日本大震災の際には復興支援に力を貸し、その後震災を風化させない為にこの企画が始まった。

ところで、私の学校の今年度の学年目標は「つながり」だ。人は人との関わりを通して成長するものであり、沢山の人とのつながりを通して自分を高めようというものである。その為「つながる」という言葉に何か縁を感じ、ぜひ参加をしたいと強く思った。

このツアーでは都会では体験できない宮古の豊かな自然を満喫する事ができる。山では閉伊川の水源地を目指して沢歩きを行い、山の草花や水生生物の観察を楽しんだ。特に水源地から湧き出る水は、今までに感じた事のないような美味しさで思わず疲れも吹き飛ぶほどだ。頂上までの険しい道のりを互いに励まし合う事で参加者同士のつながりができた。

また、川では閉伊川を知り尽した地元の達人が川流れや水生生物採集等の川遊びを教えてくれる。最初は怖かった気持ちが次第に楽しい気持ちへと変化し、私は夢中で遊んだ。ここでは川に親しんできた宮古の人達がその遊びを提供して次の世代へと繋げるというつながりを感じ取る事ができた。

そして、海ではウミネコに餌をあげたり、小船に乗って岩場を間近で見たり海の神秘的な姿を堪能する事ができる。最初に見た水源地の水が山から川へ、そしてこの海へと繋がっている事を知り、自然のつながりに気付く事ができた。

最後に震災遺構を訪れ、津波の恐ろしさや避難の大切さを学んだ。特に震災と津波を経験した語り部さんのお話は、胸に響くものがあった。震災当時の事やこれからの事を涙ながらに語る姿に、改めて災害の恐ろしさを知ったのと同時に震災を学ぶ意味について考えさせられた。私は辛い震災について教えてくれた語り部さんにどうしても感謝の気持ちを伝えたくて手紙を送った。なんと返事を頂く事ができ、また宮古で再会する事を約束したのだ。私は飛び上がるほど嬉しかった。ここでは自分からつながりを作る事ができた。

ここ数年はコロナの影響もあり、デジタル化が進んで人と会う機会が減少している。しかし私は今回のツアーを通して人と人とのつながりの尊さを感じる事ができた。実際私は様々な人とのつながりを持つ事で、人の温かさや優しさを直に感じる事ができたのだ。今回得た「つながりのバトン」を自分も他の人へと繋げていきたい。